

### 執筆者紹介（執筆順）

呉 介民（ご かいみん）	中央研究院社会学研究所
林 宗弘（りん そうこう）	中央研究院社会学研究所
平井 新（ひらい あらた）	早稲田大学政治学研究科博士後期課程
林 成蔚（りん ちえんうえい）	常葉大学法学部
川上 桃子（かわかみ ももこ）	アジア経済研究所地域研究センター
何 義麟（か ぎりん）	国立台北教育大学台湾文化研究所
若林 正文（わかばやし まさひろ）	早稲田大学政治経済学術院
明田川聡士（あけたがわ さとし）	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程
小笠原 淳（おがさわら じゅん）	熊本学園大学外国語学部
佐和田成美（さわだ なりみ）	東京外国語大学及び日本大学非常勤講師
五十嵐隆幸（いがらし たかゆき）	防衛大学校総合安全保障研究科前期課程
寺沢 重法（てらざわ しげのり）	北海道大学大学院文学研究科
澤井 律之（さわい のりゆき）	京都光華女子大学キャリア形成学部
竹茂 敦（たけしげ あつし）	法政大学沖縄文化研究所
中原裕美子（なかはら ゆみこ）	九州産業大学経営学部
田島 真弓（たばた まゆみ）	国立東華大学社会学系

### 編集委員（五十音順）

上水流久彦（副委員長）、洪郁如、佐藤幸人（委員長）、澤井律之、清水麗、張士陽、野間信幸

## 編集後記

たいへん遅くなりましたが、第17号ができあがりました。これまで以上に長丁場となりましたが、執筆者のみなさん、査読者のみなさん、文成印刷のみなさん、辛抱強くご協力いただき本当にありがとうございました。また、これまでと同様、今号に対しても、一般社団法人台湾協会よりご支援をいただいています。厚くお礼申し上げます。

そして、ここまで刊行が遅れましたこと、深くお詫び申し上げます。今号に関しては、特集の2論文が重厚なものになること、また掲載される論文・研究ノートが前号や前々号よりも多くなることを予測し、できるだけ効率的に編集を進める必要があると考え、それなりに手は打ってあったのですが、結果からみればまったく甘かったと言わざるを得ません。今後の教訓として次の編集委員会に伝えておきたいと思います。

第17号には、呉介民さんと林宗弘さんの論文のほかに、14本の投稿があり、7本が論文として、2本が研究ノートとして採用されました。ご覧の通り、中堅、ベテランによる論文が多いことが特徴です。さまざまな世代から投稿があるのはよい傾向だと思います。

今号も本体が偶数頁で終わりましたので、蛇足ながら、少々、所感を述べたいと思います。日本台湾学会はさまざまな分野の研究者が集まる学際的な学会です。その機関誌である『日本台湾学会報』の重要な役割は、台湾にかかわる学際的な交流を促すことだと考えられます。ですので、投稿者には、専門の異なる台湾研究者にも読んでもらうことを、是非、強く意識して論文を執筆してもらいたいと思います。得てして専門性を追求すると、他分野の人には読みにくい文章になりがちです。『日本台湾学会報』の読者には、折角、台湾への関心を共有し、多彩なバックグラウンドを持つ人たちが集っているのですから、その人たちとのコミュニケーションを大切にしたいと思います。

最後にご挨拶したいと思います。既に次の編集委員会は充足しています。わたしが次号の編集に携わることはありませんし、恐らく将来も再び編集に関わることはないと思います。第2号、第3号および第14号から第17号と計6号、『日本台湾学会報』の編集を担当してきました。この間、多くの方にご助力をいただきました。改めてお礼申し上げます。特にともに編集をおこなってきた編集委員の方々にはたいへん感謝しております。心より、お疲れ様でした、ありがとうございますと申し上げたいと思います。

当初、10号まで刊行できるかどうか危ぶまれた『日本台湾学会報』もこうして第17号に至りました。やや自画自賛にもなってしまいますが、執筆者や査読者の方々のおかげで内容もなかなかのものになっていると思います。編集から離れるにあたり、学会員のみなさんには、論文や書評の執筆者として、あるいは査読者として、あるいは編集委員として、そして読者として、今後も『日本台湾学会報』を支えていていただきたいと、強く訴えたいと思います。

(編集委員長 佐藤幸人)

日本台湾学会報 第17号 2015年9月30日発行

編集・発行：日本台湾学会『日本台湾学会報』編集委員会  
〒261-8545 千葉県美浜区若葉3-2-2  
日本貿易振興機構 アジア経済研究所  
佐藤幸人研究室気付  
E-mail：nihontaiwangakkai@gmail.com  
ウェブサイト：http://www.jats.gr.jp/